

国際ダンス医科学研究会に参加して

大阪医科大学三島南病院 木澤 桃子（平成 22 年入局）

この度、2018年10月25日から28日の4日間にわたりフィンランドのヘルシンキで開催された International association for Dance Medicine & Science (IADMS) annual Conference にレジデントの吉村先生と一緒に参加しました。フィンランドは北ヨーロッパにあり西はスウェーデン、東はロシアと隣接しています。ヘルシンキはその南端に位置しており、10月でもコートとブーツが必要なほど寒かったです。また、フィンランドは人口530万人程度と小さい国にも関わらずフィンランドオープン（社交ダンスの国際大会）や独自のオペラハウスを持つ国立バレエ団を有するダンス大国です。今回、oral 発表での採用をして頂き、当日まで不安や緊張とともに楽しみな気持ちでいっぱいでした。

私は英語発表による緊張のあまり観光本を購入する気持ちの余裕もなく、機中ではひたすらパソコンと向き合っていたのですが、ふと隣にいる吉村先生を見るとちゃんと「地球の歩き方」を持参し熟読していました。ホテルに到着するなり荷物をおいて彼女に言われるがままトラムに乗り、夕食のレストランに連れて行ってもらうフィンランド料理であるトナカイの肉を食し貴重な経験をしました。吉村先生のリサーチ力に感謝！

翌日の学会1日目の発表では、2つの質疑応答にもなんとか返答でき無事に終えることができました。しかし、海外の研究者のプレゼンテーションは言葉の壁を超えて自身の研究を会場の全員に伝わらせる身振り手振り、スライドのタイミングや声の通りやすさなど、眼を見張るものがあり、今回の国際学会を通して今後の課題も見つかりました。

そのほか、理学療法士やトレーナーが指導しながら参加者もダンスの体の使い方やアスレチックリハビリテーションを実践する Movement



足の外科女医
左から吉村先生、Cadad 先生、Wetke 先生、私



パリ・オペラ座バレエ団の専属医師
Barreau 先生

session やダンス公演なども行われ、朝から晩までダンス医学にどっぷりと浸かり充実した学会参加となりました。今後もダンス医学の発展に寄与できるように精進していきたいと思います。根尾教授を始め、安田先生、嶋先生、その他教室の先生方についても貴重な機会を頂いたことを心からお礼申し上げます。